

コロナ禍でも

年に一度は必ず「がん検診」を!

症状が出る前に！早期発見が重要です！

- ▶ 日本人の2人に1人は「がん」になり、3人に1人は「がん」で亡くなる時代。
- ▶ がんにかかったとき、初期症状はほとんどありません。

現在では、無症状のうちに「がん」の早期発見・治療が可能となりました。がん検診の定期的な受診は「がん」のリスクを減少させる確実な方法です。

協会けんぽの健診には「がん検診」の内容が含まれています

35～74歳

被保険者(ご本人)の皆さま「生活習慣病予防健診」

特定健康診査
(基本的な健診)

+

胃がん

胃部レントゲン
検査

肺がん

胸部レントゲン
検査

大腸がん

便潜血反応
検査

乳がん

触診・乳房
X線検査

子宮頸がん

問診・細胞診

※乳がん(40～74歳)及び子宮頸がん(20～74歳)の検診は、偶数年齢の女性が対象です。

40～74歳

被扶養者(ご家族)の皆さま「特定健康診査+がん検診」

特定健康診査
(基本的な健診)

+

胃がん

胃部レントゲン
検査

肺がん

胸部レントゲン
検査

大腸がん

便潜血反応
検査

など

がん検診は、お住まいの市町村において実施しています。特定健康診査とセットで受診できる場合があります。「どんながん検診が受けられるの?」など、ご不明な点はお住まいの市町村へお問い合わせください。

茨城支部の被扶養者の健診受診率は、前年度比で全国で最も大きく低下しました

令和3年7月27日、協会けんぽは令和2年度事業報告書を公表し、令和2年度の被扶養者の健診受診率を明らかにしました。受診率は前年度を大きく下回り、10.1%の低下は全国の支部の中で最大です。

その要因としては、各種がん検診との同時受診が可能な市町村の集団健診が中止や延期になったこと、また集団健診が予約制に変更になったことなど、感染症予防対策の実施により、1日当たりの受診可能な人数が減少したことが考えられます。さらに感染リスクの不安からくる健診の受診控えも要因の1つと考えられます。



